

『春寒便り』



後志教育研修センター
所長 長谷川 誠

例年になく、大変雪が少ない年となっております。いつも当センターの事業に対しまして、ご協力とご支援をいただき、誠にありがとうございます。

当センターの調査研究事業報告会を令和2年1月9日に開催しました。今年も小樽を含む42の学校と教育委員会から参加をいただき、会場の第一研修室は51名の出席者で一杯になりました。櫻井康雄 後志教育局長からはセンター所員の労苦をねぎらうご祝辞をもらい、菊地 博 後志町村教育委員会協議会会長と当センター組合の村井 満 教育長にも来賓として出席いただきました。お二人には最後まで研究報告を聞いてもらいましたことに深く感謝申し上げます。

また、後志教育局の2人の助言者から頂きましたご意見等は、研究紀要に生かしていきたいと考えています。更に、今年度の新しい取組として、研究紀要のダイジェスト版(リーフレット)を管内の教職員に配布し、当センターの研究の取組を知って頂こうと計画しておりますので、ご活用してください。

さて、今年度の講座受講者のアンケートで、特に注目したいのは、「研究報告を書き、全職員に還元していく」「新しい人間関係ができた。人脈は財産」「本当に困ったことを聞くことができた」「勇気が湧いてきて、明日からの意欲が出てきた」という声でした。管内教職員の研修に対する意識の高まりを強く感じる事ができました。

新年度の研修講座に向けて開催された1月末の講師団会議では、『教学半』と『子どもの心の扉は内側に鍵がある』という2つのお話しをしました。講師陣の真剣な眼差しがとても印象的で、新年度の研修講座も質の高さを期待できると実感しました。新年度の講師一覧も添付しておりますので、参考にして頂きたいと思えます。

結びになりますが、現在、令和2年度研修講座に向けて外部講師の招聘を調整中で、開催要項等の作成段階に入っております。3月末には、研修講座申込みに係わる手続き等の文書が届きますので、新年度も奮って気軽に受講して下さいようお願い申し上げます。